

清流の息吹を訪ねて まさかのアユ？

多くの偶然と難関を乗り越えてく

このコーナーは、市内山ノ内
で釣りに関するアドバイス
などを行う(株)フィッシュナビ
の代表で、「魚の専門家」
の八鳥洋二さんからご寄
稿いただいています。

梅田川で魚の観察をしていて驚いたことは、オイカワの他に多くのアユがいたことです。

「アユが棲む鎌倉の川」。今や夏の風物詩として市民にも知られつつありますが、この梅田川のアユに関しては「よくぞここまで上ってきた」と特別な想いがあります。それは、多くの偶然と難所を乗り越え、海から遙々やってきたからです。今回は、

そんなアユの目線になって、川上りの旅をしてみたいと思います。

まず、初冬に生まれた赤ちゃんアユたちは沿岸域でスクスク育ち、春になると一斉に各河川を上り始めます。梅田川のアユは、江の島に注ぐ境川河口(藤沢市)からエントリーします。境川を上り、柏尾川との分岐点で柏尾川ルートを選んだアユたちは上流(横浜方面)へ向かいます。

梅田川に行くアユは大船地点で最大の難所を迎えます。小袋谷川の流れ込み(東海道線の鎌倉踏切付近)です。アユを寄せ付けない落差と急流に果敢に挑み続け、見事、難関を突破したアユたちは支流の梅田川へ。狭い水路を進み、6月頃、最終目的地となる大船中付近に到着します。

そんなアユの賑わいもあと1カ月ほど。秋が深まる頃には、産卵のため海へ下ってしまうでしょう。



アユの乱舞(食作法の1つ)。四方八方からの不規則な動きでも、互いにぶつからないのが不思議